私の思い出写真館

CSR元年と経済同友会の歩み

濱口 敏行
ヒゲタ醤油
取締役社長

2002年10月7日、ミュンヘンのシーメンスにて

この写真は、「市場の進化と21世紀の企業」研究会が、『第15回企業白書』を作成する下準備として、2002年9月29日より2週間の日程で行ったヨーロッパ調査旅行のひとこまである。

牛尾代表幹事の「市場主義宣言」と次の小林代表幹事の「『市場主義宣言』を超えて」の両テーマを継続・発展させる形で、2000年12月に「市場の進化」を掲げた「21世紀宣言」が取りまとめられたが、この「市場の進化」のコンセプトをより深く追求すべく、有志数名が研究会を結成した。約2年間の研究の後、「企業の社会的責任（CSR）」をめぐる新たな動きをしている欧州に注目し、英国、ベルギー、ドイツ、スイスの4カ国において現地調査を行った。

団長は当時の渡辺副代表幹事・専務理事。団員は座長のディックルネサンスの斎藤さん、富士ゼロックスの小山さん、佐伯さん、ロンバー・オディエ・アセットマネジメントの村上さん、日本総合研究所の足達さん、経済同友会の安生さん、斎藤さんが参加した。

唯一の全員そろっての夕食会（ミュンヘンにて）

大いに現地のおいしいものを食べ、ワインも堪能したが、それ以上に調査の収穫が大きかった。欧州では多種多様なプレーヤーが独自の哲学・理念の下で、CSRを実践的、戦略的、体系的に推進していた。日本にはないダイナミズムを実感したことを今でも覚えている。

そして2003年3月に「『市場の進化』と社会的責任経営」と題する第15回企業白書を発表し、2003年が日本の「CSR元年」といわれるようになった。それから8年が経過したが、果たして市場は進化したのだろうか、CSRは根付いたのであろうか。

経済同友会は2009年7月に第16回企業白書「新・日本流経営の創造」を発表し、グローバル化の中で、日本流経営の良さを活かしながら、21世紀の熾烈なグローバル競争に打ち勝つ方法論をまとめた。“グローバル競争に打ち勝つこと”と“企業の社会に対する責任”という二つの大きなテーマは、まだまだ解決途上にあると思う。今、世界に指導的原理や哲学のない中で、経済性と社会性・人間性の価値のバランスは、資本主義のあり方や「株主至上経営か、ステークホルダー経営か」といった議論の中で、大変意義深いテーマなのではないだろうか。その意味でも2002年のこの写真は思い出深いものである。

注）団員の所属は調査団参加当時